

法律相談、税金相談

ともに7/24金

インボイス相談も
同日に受け付けます。

詳しくは支部へお問合せ下さい。



けんせつ北部

(購読料は組合費の中に含まれています。)

定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋 5-22-15
電話 豊島 (3986) 2471
北 (5390) 6021
板橋 (3963) 5325
練馬 (3825) 5522
発行人 寺島 耕平
発行予定日 毎月4回
1日、9日、17日、25日



豊島区へ申し入れ

建設業の現状確認と建設資材高騰への対応を要請

2026年6月4日。宮本委員長、寺島書記次長、駒谷書記次長と椎名町分会の田中さん(防水業)と私南池袋分会の山川(塗装業)で豊島区契約課を訪問し、中東情勢の緊迫化に伴う建設資材価格の高騰や資材調達環境の悪化を踏まえ、契約課柳下課長、他係長職2名に対し、豊島区内事業者として現状の訴え、適切な対応を求める要望をしました。

4月から始まった中東地域を巡る情勢は、エネルギー価格や物流コストに影響を及ぼしただけではなく、主に塗装や防水工事に使われる資材の枯渇、流通ストップを引き起こしました。現場では、資材価格の上昇分を十

分に転嫁できないケースや、資材不足による工事の遅れ、停止が起り、中小企業の経営を著しく圧迫している事を、具体的な事例を踏まえながら訴えました。また、豊島区契約課として把握している現状についても、率直に区の発注工事において影響が出ているかを質問しました。

「現時点で資材高騰や調達困難が理由の入札不成立は1件も無い」、また「現在の豊島区契約工事において、工期や価格の見直し、検討を求める話は1件も出ていない」との事です。更に「区内事業者からの契約に関する相談は、契約課には特に報告はない」との事でした。影響を想定してい



(上)当初、区長申し入れを要求するも区長との予定が合わず契約課長への申し入れになりました
(左)柳下契約課長に要請文を手渡す宮本執行委員長

も限界で、追加の資金など調達できない方が多い現状を訴え、企業や個人で対応できる範疇を超えるような場合に、区や国として迅速な負担軽減を行える制度の検討を要望致しました。

併せて、全建総連のまとめたアンケート調査結果を資料に、①早急な現状調査②資材価格変動への柔軟な対応③スライド条項等の適切な運用④急激な市場変化を踏まえた契約制度の運用⑤地域建設業者の経営安定化への配慮等を要請しました。

政府が目詰まりと言うならば、目詰まりを解消しすべての事業者が公平に働けるよう調査、指導をお願いし要望書を手渡しました。

契約課からも、要請文を受け取ると共に、継続した現状認識や制度運用に関する検討課題認識を共有し、公共工事の品質確保と地域建設業の持続的な発展に向け、関係性を強化して行く方針を引き出せ、大変有意義な機会となりました。

(山川尚人南池袋副教宣部長)

大手企業交渉 2026春

5月13日、延期になっていた大手企業交渉が開催されました。今回の交渉先は旭化成ホームズ、ヘーベルハウスの名前で大きく展開しているハウスメーカーです。

まずは土建本部に集合し交渉のテーマやポイントを確認しました。特に今回の重要ポイントは第三次担い手3法が施行されるなか、遵守されているか、工期の設定、休日の日数は適切か、労働環境の向上が図られているかがポイントになりますとの解説がありました。

午後は各交渉場へ移動し交渉開始。旭化成ホームズからは4人、交渉団は各土建からなど22人が参加しました。最初に主要な職種の賃金調査結果が配られました。多くの職種で一日当たりの賃金が26000円を超える結果となっていて、年収では700万円を超える職種もあり、賃金は上昇しつつあることが報告されました。

その後、職人数の減少が続く中、旭化成ホームズ内での技能育成を強化していることや、若手の担い手確保のために様々な手を打っている報告がありましたが、専門職や特に難しい技術職などは早急に改善していく必要がある認識でした。

参加者からも賃金や休日の質問が相次ぎ、工期については、現状では4週8休にはしない、夏場は工期を長めにして無理をさせないといった話もありました。

豊島支部から参加した仲間からは、現場での社員同士の言い争いで現場が進まない、しっかり打ち合わせをして、スムーズに現場を動かしてほしいと要望、旭化成ホームズからは「現場の隅々までは把握できない部分もあるので、何かあれば報告してほしい」と返答がありました。

予定していた2時間を超える交渉は有意義な時間となりました。

(田中承宏椎名町分会教宣部長)

プロ野球労組の40年

5月10日、本部で開催した教宣活動者会議に参加して、「プロ野球労組の40年～労働組合を元気に」の著者、ノンフィクションライターの木村元彦さんの講演を聞いてきました。

1985年プロ野球選手会の会長に中畑清選手が選ばれました。それまでのプロ野球の選手の権利は低く「統一契約書」に縛られ球団選択も移籍の自由もなく365日ポストシーズンまで拘束をされていました。現役を辞めた後も任意引退にされれば他球団の交渉はできない状態でした。

オーナー側につぶされないように極秘裏に物事を進めながら各球団のチームリーダーたちと連絡を取り合い、団結を確認しました。そして、権利として引退後の年金と最低保証年俸の増額、そして完全ポストシーズンを勝ち取りました。その時に社団法人であったプロ野球選手会を労働組合にしました。



ノンフィクション
ライターの
木村元彦さん

時は経ち、2004年、5代目古田敦也会長は、近鉄とオリックスの球団合併を新聞報道でいきなり知らされました。球団が一つ減るということは70人の選手がいきなり職を失うことです。球団側に団体交渉を求めましたが、応じようとしませんでした。渡辺恒夫読売新聞会長の「たかが選手が。身の程をわきまえないといけない」の言葉がその姿勢を表しています。

古田選手は試合中にストライキを決意したそうです。9月18日・19日ストライキをやるとアナウンスが入ると観客は「合併絶対反対」「選手会の決断を支持します」と大断幕をだして応援してくれました。ストライキの効果があり、経営者側は「球団の新規参入を考える」と妥協し、新球団・東北楽天イーグルスができ12球団が維持されたそうです。

現在大谷選手をはじめ日本人選手がアメリカで活躍する姿を見られるのも、プロ野球労働組合が40年にわたり頑張ってきた成果だと思っています。

(新井睦子南池袋教宣部長)

春の拡大月間 分会からの声

椎名町分会

田中承宏 椎名町分会教宣部長

今年の春の拡大は最終盤までもつれる、なかなか大変な拡大でした。序盤は制度利用や組合のメリットを生かした加入があり、まずまずのスタートを切りました。さらに、拡大訪問で回った法人の代表から「ちょうど明日面接で決まり次第入れますよ」とまさかの確約。順調にすすんでいましたが4月終わりごろから対象者の情報が減少。1年以上前に資料請求があったところにも改めて資料を持っていくもいい反応は見られず、成果が上らないままゴールデンウィークを迎えました。

住宅デーも迫るなか、5月早々に動きが。分会内事業所で新入社員が入るとの情報に寄せられ、早期加入を勝ち取ることに成功。さらに、4月に1人加入していた別の事業所で新たに1人成果が。残り1人となり、多少余裕はできたものの、対象者がいない状況になりました。

声かけから成果へ

そこで、改めて群会議で声をかけることにしました。すると、会計に来ていた人から1人入ってくれそうとの情報が。翌日までに必要な情報を伝え、拡大最終日に加入に結び付けました。ギリギリではあったものの、無事に目標を達成することができました。

今回のハイライトは訪問行動と声掛けです。イラン情勢聞き取りのため訪れた先で思いがけない一件。群会議で大勢の人に対話したところから一件。どちらも積極的な行動が加入に結び付きました。今後も積極的な行動でたくさんの建設業者を仲間にしていきたい。



上池袋本町分会

大嶋清子 上池袋本町分会教宣部長

拡大行動が、4月8日(水)統一行動より始まりました。ポスター貼り、看板立て、チラシ配り、訪問を頑張りました。目標の9人、どのようにと話し合い、夜の行動を昼間に変え、成果があらわれました。昼の訪問を続けることで第3次行動2日目にリーチを迎えることができました。

その後も電話掛け、訪問にもうひと頑張りして超過達成になりました。拡大対象者を2人残し、終了しました。秋の拡大に持ち越したいと思います。5月28日に拡大の打ち上げを中華店でおこないました。



さくら分会

さくら分会の仲間づくり運動は、ほぼ事業所頼みです。さくら分会は組織人員が多いため、拡大目標人数が他の分会より多いです。組織人員が多いからといって必ずしも活動家が多いとは言えず、むしろ少ないと思っています。

しかし必ずと言って良いくらい拡大に参加してくれる女性陣の小田さん、野本さん、石川さん、鶴崎さん。宣伝行動や昼間の事業所訪問も含めて本当にありがたい戦力です。今回の仲間づくり運動月間は、始まる前から2人すでに加入していて気が楽でした。拡大行動日は、集まるたびに拡大話と世間話とちらし撒きをします。今回は、子育て世代の、女性の会事務局長の西村さんが加入してくれて、土建への理解があり、うれしい限りです。そして、分会内事業所での加入と宮島組からの2人加入で、最終日を待たず5月14日に目標人数を達成することができました。

仲間づくり運動での組合員訪問行動ですが、いつも突然でびっくりされることが多く、快く受け入れてくれる人はいつもの人々で少なく、大概、電気はついているものの応答がなく、何か居留守を使われているのではないかと疑い、お互い気まずいのではないかと考えてしまいます。訪問する前にアポを取ると簡単に断られてしまうことがあるので、迷惑と思いながらも突然になってしまいます。何か良い方法を見つけないです。



南池袋分会

新井睦子 南池袋分会教宣部長

3月29日の日曜行動から約2カ月の拡大月間が始まりました。拡大目標は6人です。

例年、春は分会内事業所の新入社員の加入があるので秋の拡大よりは余裕があります。今年もさっそく2人の加入がありました。

拡大行動日に分会センターに分会役員が集まり、チラシ折りをし、チラシ配りをしました。訪問グッズをみんなで話し合い、今年は、セレクトなティッシュと台所洗剤に決め、買い揃えました。

拡大後半戦に入り、山川分会書記長を中心に「仲間と顔を合わせて話し合う」と訪問活動を旺盛に行いました。若手で若手を訪問し、年配の組合員さんは年配の仲間を訪問しました。新入学祝い金・卒業祝い金の対象者も訪問しました。区外の遠くの仲間も何回かに分け訪問しました。普段会えない仲間の顔を見て話し、交流を深めました。

なかなか対象者が現れない中、分会内事業所から2人の加入がありました。そして、拡大最終週ギリギリで2人の加入にこぎつけ、何とか今回も達成することができました。

統一拡大行動日に分会センターに集まる人が前より少なくなっています。現役で働く役員さんは、公私にわたって忙しいと思いますが、時間が作れるときはセンターに集まってほしいと感じています。



大盛況の住宅デー

2分会からのレポート

みんなが主役、住宅デー

椎名町分会

6月7日、椎名町公園で住宅デーを開催しました。今回も工作や包丁研ぎ、住宅相談に加え、焼きそば、フランクフルト、ビンゴ大会、他団体からは東都生協、落書きカー、電動三輪車の体験試乗などを用意しました。

分会での打ち合わせ段階から、入念な準備をおこないました。群長が集まる分会執行委員会において全員で物品の確認、共有をして買い出し。多くの人が確認することで忘れがないようにしました。

問題は天候。前日まで午後から雨予報が出ていたため、テントの増発、休憩所の設置などを検討、かなめ分会からテーブルやイスを借りて本番に臨みました。

迎えた住宅デー当日。バタバタはあったものの、予定通り10時から始まりました。工作や包丁研ぎはスタートから盛況であつという間に受付に列ができました。

昼ごはんの時間が近づくと焼きそば、フランクフルトが大人気。焼いても焼いてもすぐ売り切れる時間が続きました。東都生協も3件の成約、体験試乗も70人を超える人が並びました。毎年大人気の落書きカーは今年も一日通して子どもたちの楽しそうな姿が見えました。

なによりも今年うれしかったのは、他分会の仲間がたくさん見に来てくれたことです。住宅デーの楽しさ、意義などを見ながら体験してもらえたことは非常に良かったと思います。来年以降も住宅デーの楽しさを伝えながら、東京土建の名前を地元に応えたいと思います。

田中承宏 椎名町分会教宣部長



人出も多く大盛況の椎名町公園

風船に子どもたち大喜び

上池袋本町分会

伏見智美 通信員

6月7日、上池袋くすのき公園で「住宅デー」を開催しました。当日は小雨がぱらつく時間もありましたが無事に実施。オープン前から包丁研ぎに10人以上が並び、最終的に包丁147丁、ハサミ等13点をお預かりする大盛況となりました。

会場ではポップコーン(170個配布)の音が響き、初出店のヘアマッサージ、子ども向けヘアアレンジ、健康相談などのブースでにぎわいました。人気の木工手さげ箱(32個)では職人の指導のもと子どもたちが真剣に工作を楽しみ、モザイクタイルの写真立て(24個)やコースター(12個)は自由な発想で個性的な作品ができました。ランチにはキッチンカーが登場。初の試みとなったバルーンアーチは準備に苦戦したものの、風船プレゼントは子どもたちに大喜びされました。他分会や他団体を含むスタッフ53人の皆さま、温かいご協力を本当にありがとうございました。



上池袋本町分会組合員とそこそ家族や他分会の仲間たち